

[テーマ]

基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

(a) テーマ全体の自己点検・評価の要約を記述する。

コンピュータ利用に関する技術サービスでは、新入生に対する「ネットワーク利用講習会」を入学直後に実施し、学内 LAN 及びコンピュータの利用を促進している。また、授業では使用せず、自由に使用できる A 棟 134 教室（コンピュータ準備室）には、事務系助手 2 人が配置され、ヘルプデスクの機能を果たし、専門的な支援を行っている。そのほか、就職進学支援室には 8 台のコンピュータが置かれ、就職活動では、コンピュータ画面を見ながらその場で支援を受けることができる。また、図書館と食堂からも、無線 LAN が利用できる。そのほかの技術サービスとして、着ぐるみの保管・管理がある。また、美術学科の教員の多くは、現役の作家であり、個展の開催や公募展での入選などを通じて、学生に多くの刺激を与えており、専門的支援として機能している。

学生に対する情報技術の向上に関するトレーニングとして、各学科で 2 科目以上の情報処理関連科目が開講されている。一方、教職員に対しては、新規採用時に学内コンピュータの使い方及びメールの使い方の講習を行っている。

教育情報処理設備（コンピュータ室）の利用依頼、利用法などの技術的支援を行うため、コンピュータ主任を配置している。コンピュータ主任は、情報処理関係科目担当教員 6 人と事務系助手 2 人とともに、ビジネス実務学科実習棟にある 5 室のコンピュータ室（全学科共同利用設備）の管理・運営を行っている。なお、美術学科棟には学科専用の CG 系教育機器を整備したコンピュータ室が 3 室あり、美術学科教員 3 人が運営管理を行っている。

近年のコンピュータに関する整備では、全学科共同利用のコンピュータすべての Microsoft Office を 2010Version に更新し、平成 24（2012）年度前期から使用している。また、平成 24（2012）年度には文部科学省の「教育・研究装置及び教育基盤・研究設備」の助成を受け、平成 25（2013）年度に Windows8 が動作するコンピュータ 80 台を導入・更新すると共にそれ以外のコンピュータも OS を更新する予定である。また、平成 24（2012）年度には文部科学省の「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に「アクティブラーニング設備による遊学精神の深化」が採択され、その一部として、美術学科専用コンピュータ室に 13 台の Windows パソコンを追加導入した。

技術的資源の配分については、常に見直し、活用している。

コンピュータの学校運営への活用として、専任教員は採用時にコンピュータを 1 台貸与され、また、事務職員は 1 人 1 台のコンピュータを使える環境が整備されている。メールシステムの運用では、申請により部署ごとのメーリングリストが使用でき、教職員間の情報共有などに活用している。

学内 LAN や各種サーバーの計画・運営・管理を行う組織として、「金城大学コンピュータ・ネットワーク管理センター」（金城大学との共同運営）を設けている。教員研究室、事務局、図書館、コンピュータ室などには LAN を設置済みであるが、短期大学部棟全体への LAN 利用環境の整備には至っていない。

無線 LAN や PLC 接続などコストを考慮して順次整備している。

情報技術などの活用による授業を行うため、平成 24（2012）年度「私立大学教育研究活性化設備整備事業」の助成を受け、教室内のパソコン等の環境整備とともに、新たにクリッカーなど全学的にアクティブラーニング設備を充実し、学生のグループ学習等による主体的な学びの活性化を図っている。

学生支援のコンピュータ利用として、EIS があり、学生への各種連絡や情報公開など幅広く活用している。

全学科共同利用設備として、3つの専用コンピュータ室と A 棟 135 教室（一般演習室としても利用可能）で各種情報処理教育が可能で、168 台のコンピュータがある。

幼児教育学科が利用する特別教室として、ナーサリールーム、実習室、リズム室、ピアノレッスン用個室 21 室がある。美術学科では、専用のコンピュータ室が 3 室あり、Windows パソコン 23 台と Apple パソコン 45 台が置かれている。また、各コースの教育内容に合わせ、制作する場にふさわしい教室環境を整備している。

(b) 自己点検・評価に基づく改善計画を記述する。

特になし。

〔区分〕

基準Ⅲ-C-1 短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

コンピュータ利用に関する技術サービスでは、新入生に対する「ネットワーク利用講習会」を入学直後に実施し、学内 LAN 及びコンピュータの利用を促進している。【備付資料：No.78・79】学生はこの講習会を受け、「利用に関する誓約書」を提出すれば、ユーザーID が得られ、学内 LAN（ファイルサーバー、メールシステム、インターネット接続）の利用が可能となる。特にファイルサーバーにより、学内 LAN に接続されたどのコンピュータからも、自分の保存領域を使うことができ、USB メモリなどを持ち歩かなくても課題演習のファイルを読み込み・保存することができる。また、自宅のパソコンからもファイルサーバーに保存した自分のファイルを読み出すことができる。また、授業では使用せず、自由に使用できる A 棟 134 教室（コンピュータ準備室）には、事務系助手 2 人が配置され、ヘルプデスクの機能を果たし、専門的な支援を行っている。そのほか、就職進学支援室には 8 台のコンピュータが置かれ、就職活動（情報収集、求人検索、卒業生の就職情報・受験報告書検索）では、コンピュータ画面を見ながらその場で支援を受けることができる。また、図書館と食堂からも、無線 LAN が利用できる。自分のノートパソコン等を学内 LAN に接続して利用したい学生に対して、年に 2 回、講習会を開催し、利用 ID を発行している（平成 25（2013）年度以降は、利用 ID がなくても接続可能とし、さらに学内 LAN の利用を推進する予定である）。

そのほかの技術サービスとして、着ぐるみの保管・管理がある。幼児教育学科では、1 年次夏季休暇期間中に集中授業「製作 I」で着ぐるみを製作している。製作の際、先輩の製作物を参照することができ、後期以降の着ぐるみの操演方法を学習する際に貸出している。また、学生のボランティア活動や学外への貸出も行っている。

美術学科の教員の多くは、現役の作家であり、個展の開催や公募展での入選などを通じて、学生に多くの刺激を与えており、専門的支援として機能している。

学生に対する情報技術の向上に関するトレーニングとして、幼児教育学科では、2 年次前期に「情報処理」、2 年次後期に「教育情報機器演習 I」を開講し、Word、Excel、PowerPoint、Web ページ作成を学習している。美術学科では、1 年次前期に「オフィス演習 I」、1 年次後期に「オフィス演習 II」を開講し、Excel の応用までを学習する一方、CG 系の学習も行っている。ビジネス実務学科では、必修科目の「ビジネス文書演習 I」、「表計算演習 I」、「表計算演習 II」をはじめとして多くの情報処理関連科目が開講されている。

一方、教職員に対しては、新規採用時に学内コンピュータの使い方及びメールの使用方法の講習を行っている。

教育情報処理設備（コンピュータ室）の利用依頼、利用法などの技術的支援

を行うため、コンピュータ主任を配置している。コンピュータ主任は、情報処理関係科目担当教員 6 人と事務系助手 2 人とともに、ビジネス実務学科実習棟にある 5 室のコンピュータ室の管理・運営を行っている。教員 6 人中 2 人については、専門的な技術支援を日常的に行うため、担当授業コマ数を低減している。

具体的な業務内容は多彩で、新入生に対する「ネットワーク利用講習会」の実施、日常的なトラブル対応・技術支援、次年度向けコンピュータシステムの構築・更新、新たなハードウェア及びソフトウェアの導入計画・実施などである。これらの結果として、情報処理教育に必要な技術的資源を十分に整備・運用している。なお、美術学科棟には学科専用の CG 系教育機器を整備したコンピュータ室が 3 室あり、美術学科教員 3 人が運営管理を行っている。

近年のコンピュータに関する整備では、全学科共同利用のコンピュータすべての Microsoft Office を 2003Version から 2010Version に更新し、平成 24 (2012) 年度前期から使用している。また、平成 24 (2012) 年度には文部科学省の「教育・研究装置及び教育基盤・研究設備」の助成を受け、平成 25 (2013) 年度に Windows8 が動作するコンピュータ 80 台を導入・更新するとともにそれ以外のコンピュータも OS を更新する予定である。また、平成 24 (2012) 年度には文部科学省の「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に「アクティブラーニング設備による遊学精神の深化」が採択され、その一部として、美術学科専用コンピュータ室に 13 台の Windows パソコンを追加導入した。

技術的資源の配分については、常に見直し、活用している。例えば、授業担当については、教務部を中心に、所属学科にこだわらず他学科も含めて最良の配置を毎年計画・実施している。また、全学科共同コンピュータ室の利用について、美術学科専門教育での利用も時間割の調整を行い、拡大させている。

コンピュータの学校運営への活用として、専任教員は採用時にコンピュータを 1 台貸与され、授業準備・メールなどに活用できるようになっている。また、事務職員は 1 人 1 台のコンピュータを使用できる環境が整備されている。

メールシステムの運用では、申請により部署ごとのメーリングリストが使用でき、教職員間の情報共有などに活用している。

学内 LAN や各種サーバーの計画・運営・管理を行う組織として、「金城大学コンピュータ・ネットワーク管理センター」（金城大学との共同運営）を設けている。教員研究室、事務局、図書館、コンピュータ室などには LAN を設置済みであるが、A 棟全体への LAN 利用環境の整備には至っていない。無線 LAN や PLC 接続などコストを考慮して順次整備している。

DVD などの AV 機器を利用した授業や PowerPoint などによるコンピュータ利用の授業は、授業担当者ごとに多く行われてきた。平成 24 (2012) 年度「私立大学教育研究活性化設備整備事業」の助成を受け、教室内のパソコン等の環境整備とともに、新たにクリッカーなど全学的にアクティブラーニング設備を充実し、学生のグループ学習等による主体的な学びの活性化を図っている。

学生支援のコンピュータ利用として、EIS があり、学生への各種連絡や情報

公開など幅広く活用している。この情報は携帯電話やスマートフォンからも閲覧可能である。また、クラス担任はメールを利用して個々の学生と連絡することが一般的となっている。

全学科共同利用設備として、3つのコンピュータ室(A棟 131 教室~133 教室)と A 棟 135 教室 (一般演習室としても利用可能) で各種情報処理教育が可能で、168 台のコンピュータがある。

幼児教育学科が利用する特別教室として、A 棟 204 教室(ナーサリールーム)、A 棟 141 教室 (幼児教育学科演習室)、A 棟 328 教室 (リズム室)、A 棟 301 教室~311 教室及び A 棟 318 教室~327 教室のピアノレッスン用個室が 21 室ある。また、幼児教育学科の各クラスルームにはピアノを設置している。

美術学科では、専用のコンピュータ室が 3 室 (A 棟 111 教室、A 棟 113 教室、A 棟 211 教室) あり、Windows パソコン 23 台と Apple パソコン 45 台を設置している。また、各コースの教育内容にあわせ、制作する場にふさわしい教室環境を整備している。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

特になし。